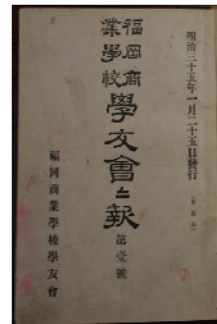


発表タイトル	日露戦争前における海外修学旅行研究
発表者所属名	国際日本研究専攻（国際日本文化研究センター）
発表者氏名	王 莞晗

日露戦争前後の海外修学旅行と言えば、明治 39 年（1906 年）に行われた満洲修学旅行がとりわけ有名である。3694 名の生徒と教職員が参加したこの大旅行は、計五便によって行われ、満韓方面へ行く学生や教師の集団旅行が教育面で制度化されたシンボルとなり、旅行史や日中交流史を研究する上で看過することが出来ない。しかし、学生の海外修学旅行の嚆矢となるのは、九州地方における商業学校の旅行であった。早期の修学旅行はそれらの学校自身が計画し、県や市から経済的支援を受けていた例も見られるが、軍部や文部省が作ったいわゆる「制度」との関わりは極めて希薄であることが特徴であった。

日露戦争以前に実施された海外修学旅行：

実施年	学校名	行き先
1896 年	長崎商業学校（現：長崎市立長崎商業高等学校）	上海周辺
1898 年 8 月	熊本商業学校（現：熊本県立熊本商業高等学校）	上海周辺
1902 年	福岡商業学校（現：福岡市立福翔高等学校）	朝鮮
1902 年 5 月	関西中学校（現：関西高等学校）	朝鮮
1902 年 6 月	関西中学校（現：関西高等学校）	北米
1904 年～1905 年 日露戦争		



「上海への修学旅行は日清戦争の終わった直後の明治二十九年に始まった。もちろん生徒の修学旅行としては全国初だ。」この計画は生徒の発案だった。学校側は戦争直後のことだけに一時はしぶったが、そこは海外との交流の多かった土地柄だ。結局生徒の要求が通り、五年生の京都旅行が、上海旅行に変更になった。」

『長商群像』（九十年史）、西日本新聞社、昭和五十年

「修学旅行の内容はというと、銀行や船会社を訪問し、国際都市上海の金融流通や貿易の実態を肌で学び取るというものでした。学校で習った英語がどこに行っても通じることに大きな喜びを感じました。」

『熊商人物伝——明治・大正を駆け抜けた熊商スピリッツ』、熊本県立熊本商業高等学校、平成 20 年 3 月